

第1回審議会後に委員から寄せられた意見

【意見①】

1 基本計画について

基本計画、教育目標、学校教育に関わる重点項目など、全般についての意見感想

先日の会議で、特に産業界の代表の方からの意見で「社会で自立する力」を育てることを指摘されました。この点は同感です。動物もしている、わが子を自立させる努力は、おやのみならず社会の大人にとって大事な任務です。国の目指す人間像にも「自立して社会でいきていく基礎を育てる」と明示してあります。

ただ、「自立して生きる」ことは必要条件ではあるけれども、十分条件ではないと思います。つまり「よく生きる」こと、教育基本法にあるように、「人格の完成」を目指すこと、個性をより良く発揮し、自己実現を図ることが必要です。基本計画、教育目標に若干この点の記述が弱いような印象があります。

学力について

学力テストの結果にも出ているように、学力 A は水準以上だが、B は以下であることから、B の向上に力点を置くべきであると思います。それには実体験をできるだけ多くさせることが必要です。知識は体験を通して身につくものであるからです。そういう意味で総合学習に大いに期待していたのに、学力低下の反省から総合学習の見直しも検討されているのは残念です。

倉吉らしさを出す観点からも、もっと地域に出掛けて、地域の自然の中で色んな体験をすることが重要と思いますが、そのことが引いては学力 B の向上に役立つと考えます。

また、学力 B は、言葉の力が大きいと思うので、読む書く聞く話すなどの国語力をのばす手立てが必要です。10分間読書などはとてもよい試みです。市立図書館の充実、その活性化、各学校の図書室の充実なども必要と考えます。

体力について

生涯学習の観点から、マイホビー、マイスポーツを持つ重要性が言われています。それを発展させ、マイホームスポーツ、マイコミュニティスポーツもあっていいと考えます。個人的には相撲などはいいと思いますが、今の子どもたちには不人気ですかね。

【意見②】

先般の学校教育審議会で、思うところを述べるができなかつたので、お伝えしておこうと思います。

子どもたちの置かれている状況が、厳しいと感じる場面にあたるのが非常に多くなっています。社会の経済状況の悪化が、これほどに子どもたちの生活に影響を及ぼし、子どもの貧困と格差の拡大を引き起こしていることに危機感を持っています。

私たち大人は、子どもたちにとって、次代の社会を担っていく人材（社会人であり家庭人）を育成していく上で、家庭のみならず地域社会全体、ひとり一人の存在が、子どもたちにとって環境であるということを自覚して、子どもたちに関わっていく必要があると思います。

計画を立てていく上で、教育の機会均等、格差の是正、進路保障が大きな命題だと考えます。子どもたちひとり一人を見てみると、家庭の経済状態により、基本的な生活習慣や様々な体験の量・質、情報の量・質に大きな格差が見られ、ひいては、学力・体力、スポーツ、文化・芸術にまで格差を生み出していると思います。また、学校間においても、規模の大小によって、前述の格差を埋めることはできず、むしろ、埋める手立てが充分に取れない状況があるのではないかと感じています。

子どもに机の上での学力がついていたとしても、生活体験の中から身につけた知識を活用する力や人とつながる力がなくては、本当の学力がついているとは言えないと思います。受験のための学力をつけるために、家庭で三食を摂らない子どもたちや人と交わることが苦手な子どもたちがいる。学習やこれもある意味、子どもの貧困ではないでしょうか。

都市部と地方、市街地と農村部という地域の実態の差も、子どもたちの生活リズムや体験・経験に大きな影響と較差を産んでいます。

しかし、生きていく上で向上心や一つの自信があれば、生涯の学びの中で自らを磨いていくことでしょう。

生きていく上で必要な衣食住に関わる基本的な生活習慣や社会のマナー・ルールは、子どものうちから身につけていくために、学校、家庭も含めた地域社会全体で意識をしながら、子どもと関わっていかなくてはならないと思います。生きる力、人間力は、地域や学校以外の社会と交わり関わることによって、身につけより育まれていくと考えます。

先生方の多忙感を解消するために、地域の人々が学校の活動の中に参加したり、日常的に学校へもっと入り込んで、子どもたちに指導伝達ができるような環境づくりが必要だと思います。開かれた学校づくりが推進されることを望みます。まだまだ、学校は閉鎖的であると感じています。

先生方の育ちの中での生活体験や経験の差を感じるが多くなりました。また、地域の伝統や文化に対しての識見や、地域の人たちとの交流の場面でコミュニケーション力が

不足しているのではと思うことも多々あります。以前に比べて、子どもたちや保護者への対応においても、温かで時には毅然とした態度で接する技量が必要だと感じることもあります。

倉吉市では、就学前からの子育て支援、特別支援教育に努めて来ていますが、就学前とのより一層の連携が図られ、特別支援学級の子どもたちが自己肯定感を持って、自尊感情を高めていけるような環境づくりが必要と考えます。

学力低位の子どもたちへの手立ての必要を感じます。全国、県の平均を上回っていても、低位の子どもたちの実態を把握して、学力を向上させていくことが大切だと思います。極端なことをいいますと、将来の要保護家庭を生み出さない取り組みを考えなくてはならないと思います。要保護・準要保護家庭の増加は、放っておけば、将来もその家庭がそうなる可能性が高い状況が、今の社会にあるからです。

子どもたちが望ましい成長をするための学校・学級の適正な規模についての議論検討を地域へメリット・デメリットを示しながら、教育保障・進路保障・格差是正の観点から課題の克服に向けて、早急に取り組まれることを望みます。

明日の倉吉の教育を考える会がだした提言の中の項目が、是非、方針や重点施策として反映されることを望みます。

【意見③】

(1) 基本方針について

ものに感謝する心を養う

みんなで協力してものごとを作り上げる力を養う

(そこには、リーダーがあり、副リーダーがあり、それを支えるみんながいる)

(2) 教育目標について

他人を認め合うと共に、今の社会を認め合って思いやりの心を養う。

社会のルールをしっかり認識し守ること

(3) 学校教育に関わる重点項目について

道徳教育と人権教育をきちんと分けて教育する

(4) その他(倉吉市教育振興基本計画全般についての意見)

名称は倉吉市教育振興基本計画ですよね。ならば、学校教育振興基本計画であると同時に家庭教育基本計画であり、社会教育振興基本計画でなければならないと考えます。

学校教育の名の下に子どもの養育は学校現場に重きを置かれているが、家庭教育・社会教育も同等の責任を持たなければならないと思います。つまり、同等の施策が必要と考えます。

【意見④】

(1) 基本方針について

私は県外から嫁に来たので、自分が子どもの頃と今の子どもたちのことを比べてもしょうがないかなと思いますが、世の中が何でも便利になりすぎて子どもたちに「やる気」をなくしているように思います。私が子どもの頃は学校は楽しいところで「部活命」のような気持ちでしたが、子どもたちは今、そういう子が少ないように思います。「やる気」を育てる環境をつくってやりたいです。

(2) 教育目標について

目標はたくさんあるより、一つずつ達成ができてから、次の目標にうつる方がよいのではないか?! 一度に目標達成するのは、とても難しい。

(3) 学校教育に関わる重点項目について

中3の保護者の意見：去年中2の時は、40名になってしまった為、学校からの連絡もなく1クラスになってしまいました。校長に聞いたところ、「5月1日現在の人数により決まる」という答え。また今年も1クラスなのかどうかわかるのははっきりしなかったが、校長先生が何かしら働きかけてくれたおかげで2クラスになりました。他の学校と違い小学校からずっと1クラスでクラス替えもなく、張り合う仲間がないので、せめて中学校では…という思いが親としてはあります。高校に入学すれば40人学級の多さにびっくりするけれども、義務教育の間はなんとか40人を割っていても小さい学校の場合は特例として2クラスにして欲しいです。1クラスだと、体育祭も文化祭も少しつまらない…。子どもの意見はというと、1クラスになった良い点もあったようだが(文化祭でのコーラス、クラス替えがなく仲良しの友達と別れなくてよい など)、保護者の大半は1クラスになるのには反対です。3年生だけでなく、1, 2年も転出者が出れば、いつ1クラスになってもおかしくない状況です。うちの中学校は人数が少ないため、部活動の種類も少なく、他の地区の子どもが何人来てくれるのか、私立中に行く子はいないかと毎年生徒数が気になります。「魅力的な学校にするにはどうすればよいか」ということがうちの中学校の課題になっています。この問題は、他の学校にも起こりうる問題なので、何とか検討していただきたいです。